

やよい図書館TOPICS

館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

フレーズ
&
センテンス

「なんだか、久しぶりにちゃんと息をしたら、いきなり潮のいい匂いがしたという感じがする。」
故郷である西伊豆の土肥に、力キ氷屋をオープンした主人公のまり。ある日まりの母親が、親友の娘であるはじめちゃんをひと夏あずかることにしたと、まりに告げます。祖母の死のショックから弱ってしまったはじめちゃんと出会い、話をするうちに、まりは「この夏はみんなはじめちゃんにあげよう」と決意をします。そんなまりはじめちゃんが言ったのが、冒頭の一文です。人の心と自然の様子が丁寧に描かれた物語で、挿絵の版画も素晴らしい一冊です。

『海のふた』よしもとばなな／著 ロッキング・オン

(青山)

「誰か×誰か」「誰か×何か」の組み合わせが面白い！

小川洋子×7人の科学者 『科学の扉をノックする』 集英社

本書は、『博士の愛した数式』の著者として知られる小川洋子さんが、様々な分野の研究者を取材したものです。あとがきにもありますが、研究文献ではなく、個人的な興味に基づく現場レポート、といった感じでしょうか。科学初心者である小川さんの素朴な疑問に、研究者の方々が丁寧に、真摯に答えている様子がその文面から伝わってきます。「美しい、と思うことは、科学への扉の一番の近道だ」と小川さんは言っていますが、美しい科学の世界を美しい日本語で紹介した本書は、きっと最良の近道になることでしょう。(丸山)



原本から入って良し、映画から入っても良し。

Cinema
library

第18回

カラフル

★原作「カラフル」著者：森絵都 ★映画「カラフル」監督：原恵一

死んだはずの「僕」はこの世とあの世の間で天使プラプラに出会う。プラプラは「僕」が当選したことを告げる。当選とは死んだ人間の身体を使い、もう一度生きる事。そして「僕」が前世で犯した罪を思い出す事。「僕」は自殺した小林真として、この世で生きる事になった。

原作では特にどこが舞台ということは明確にはされませんが、アニメ映画では二子玉川周辺が舞台となっています。実際に二子玉川の駅やその周辺にある駅名、観光地の等々力渓谷がリアルに再現されています。特に等々力渓谷は、今行っても映画と同じ光景を見ることができます。ただ残念なことに、二子玉川駅周辺は再開発前の光景が描かれているので、今は見ることができなくなっています。

映画では、「プラプラがどうして天使になったのか」原作では書かれていない、その理由が明かされます。映画と原作、映画と現実の違う部分を探してみると楽しい一作です。

次回は「やさしい本泥棒」です。お楽しみに！(大塚)



次回の読書の窓は
11月号です。

その月ならではのテーマを特集。全てやよい図書館で借りられます。

9月「Cookの日」

9月のテーマは、9月9日の「Cookの日」です。美味しい料理のように、読めば読むほど味が出る…そんなとておきの「料理の本」を、皆様にご紹介します！

『和食の料理用語事典

料理と調理技術がよくわかる』

中村昌次／著 旭屋出版

始めにこの本を開いた時、目次に書かれた項目のあまりの多さに驚きました。煮物の調理法だけで、なんと30種類も載っているのです！「桜煮」「蜜煮」「翡翠煮」…読んでいるだけでわくわくし、なによりお腹が空いてきます。和食の奥深さと同時に、日本語の美しさを感じることができます。(新井)

『禁断のパンダ』

拓未司／著 宝島社

神戸にビストロを構える料理人柴山幸太は、妻の友人の結婚式に出席したこと、料理評論家の中島と知り合う。常人離れした味覚を持ち、美食を極めた彼が、最後に求めた料理とはなんなのか。そして、彼らの背後で次々に起る失踪事件との繋がりは…?

最後の1ページまで目を離せない、極上の美食ミステリーです。(丸山)

『食べることは、生きること』

近藤文夫／著 幻冬舎

銀座に店を構える「てんぷら近藤」の店主が綴る、食と仕事に関するエッセイ。淡々とした語り口からは、その実直な仕事ぶりと料理人としての矜持が伺えます。そして、全てのページから伝わるのは「お客様のために」という強い想いです。こんなにも真摯に自分の仕事に、そして「人」に向かっている人がいるのだ、と背筋が伸びるような1冊です。(丸山)

・『料理・スイーツの撮り方きほんBOOK 作って撮つておいしく食べる。』 南都礼子／作 マイナビ

・『料理と栄養の科学 「おいしい！」を解き明かす』 渋川祥子／監修 新星出版社

10月「図鑑の日」

10月22日は、日本で最初に「図鑑」の書籍名称を用いた『植物図鑑』が初版された日です。ということで、今回は老若男女楽しめる、そんな図鑑を集めました。

『ちがいのわかる絵事典』

村越正則／監修 P H P 研究所

アザラシとアシカの違いは？コンブとワカメの違いは？…尋ねられると、すぐには答えづらい似た者同士たち、この本はそんな疑問がイラストを用いて分かりやすく説明されています。子どもに限らず、大人の方も「なるほど～」と思ったり、逆に「それはわかるよ！」とつっこみたくなるページもあったり、1人でも、誰かと一緒に読んでも楽しい1冊です。(竹原)

『異形再生 付「絶滅動物図録」』

エリック・ハズベス／著 原書房

スフィンクス、ペガサス、ケンタウロス…本書にはこれら想像上の動物の詳細な筋肉・骨格構造および内臓の解剖図のスケッチが収められています。『絶滅動物図録』と名付けられたこれらのスケッチと、それを遺して消息を絶ったスペンサー・ブラック博士なる人物の数奇な生涯を記した1冊。果たして事実かフィクションか、その目でお確かめください。(丸山)

『デザインマンホール100選』

阿寒から波照間へ街歩き』

池上修／著 アットワークス

まちの姿を時には色鮮やかに、時には趣あるデザインで表現している日本のマンホールが紹介されています。冒頭にある「マンホールはメッセージ。」という言葉通り、各地の魅力や知らなかった一面が見てすぐに伝わってきます。読んだ後、自分の住むまちや旅先で、ふと足元に目を向けたくなる図鑑です。(本田)

・『ときめく鉱物図鑑』

宮脇律郎／監修 山と渓谷社

・『青い生きもの図鑑』

小宮輝之／監修 河出書房新社